

2014年9月15日(月・祝) ぶらんとマガジン社発行

この病気にはこのドクター 掲載

心臓血管外科 本橋副院長、泌尿器科 小野科長

函館中央病院

函館市本町 33-2
TEL0138-52-1231
http://www.chubyou.com



副院長
本橋 雅壽氏

1983年北海道大学医学部卒業。2009年より現職。日本外科学会指導医・専門医。日本胸外科学会評議員・認定医。日本心臓血管外科学会国際会員。心臓血管外科専門医認定機構専門医・修練指導者。医学博士

手術数	431
冠動脈バイパス術	125
心臓弁膜症	95
胸部腹部動脈瘤・大動脈瘤解離	70

函館中央病院

函館市本町 33-2
TEL0138-52-1231
http://www.chubyou.com



泌尿器科科長
小野 武紀氏

1998年弘前大学医学部卒業。北海道大学大学院、釧路労災病院などを経て2012年より現職。日本泌尿器科学会専門医・指導医。日本泌尿器科内視鏡学会、泌尿器科腹腔鏡技術認定医、医学博士

前立腺肥大症	1041
尿路結石	98

日本心臓血管外科専門医 認定機構関連施設

心臓大血管疾患をはじめ、末梢血管、下肢静脈瘤など循環器疾患全般を取り扱い、日本心臓血管外科専門医認定機構関連施設である。虚血性心疾患に対しては、基本的にはすべて侵襲の少ない、人工心肺を使わないオフポンプバイパス術を第一選択としている。

また、心筋梗塞の合併症の心室瘤に対しては左室形成術も積極的に取り入れる。弁膜症に関して、僧帽弁疾患には術後抗凝固療法が不要になる可能性がある弁形成術を選択肢の第一としている。

近年増加傾向にある大動脈弁疾患には人工弁置換術を基本とするが、症例によっては形成術も行う。大動脈疾患は、胸部大動脈瘤、急性大動脈解離等に対応。いずれの疾患も、術後ほぼ2週間以内の退院が可能だ。

腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など腹部以下の動脈疾患には、血管内治療（ステントグラフト、ステント）も取り入れ、良好な成績を収めている。

最新鋭で高度な診療 小児・女性の症例も 多数手がける

3人のドクターが日々の診療にあたる。さまざまな泌尿器科疾患で悩んでいる患者に、「心ある医療」をモットーに、最良の医療を提供しようと取り組んでいる。

道南では、唯一の周産期母子医療センターでNICUを設置しているため、小児泌尿器科症例も数多く手がけている。

停留精巣、陰嚢水腫、膀胱尿管逆流症、水腎症に対しては外科的治療で対応。また、尿路性器がんには低侵襲治療などQOLの高い治療を優先的に行うようにしている。腹腔鏡下手術も精力的に推進し、特に小径腎がんに対しての腹腔鏡下腎部分切除術では、良好な成績を収めている。

昼夜を問わない頻尿や蓄尿時痛を主訴とする特殊な膀胱炎である間質性膀胱炎に対し、膀胱水圧拡張術を保険適応できる施設に認定されている。

また、女性の腹圧性尿失禁や骨盤臓器脱に対しても外科的治療を中心に行い、道南で唯一、骨盤臓器脱に対しメッシュ手術（TVM）が実施できる施設である。